

『100の人骨』

東京副都心の高層ビル街
風がひゅーう ひゅーう
抜けています
この近くで国の管理地で
100の人骨が出てきました

……
「なにが行われたのだ！」
「……………」

あうあの土地はね
防疫研究室731部隊拠点です

まさか……………

本当です 正確には
旧軍医学学校跡地って言いますが

……………
731部隊って中国大陸の各地で
生体実験をした部隊でしょう？

ええ細菌戦の研究もしていたと！
さらにね頭骨にドリルの穴などが

ガラス容器の破片も有ったと

空襲の被災者とは言えないですね
で！……………？

厚生省は関係者を不問ですよ

馬鹿な！ いいですか百体以上の
人骨が出たんですよ

それも彼の地が遺体骨らしい……
誰が？ 何故に？ この場所へ？

…………… 不問ですと？
……………

…………… 不問ですと？

……………
「なにが行われたのだ！」
「……………」

新宿副都心高層ビル街は今日も
蠢き吹き下ろす突風が

ひゅーうひゅーうひゅーう
唸りながら通り抜けています

あなた達にだって
その責任が有るのですよ

使用テキスト

1994/03/27 — 朝日新聞, 社説

『懲鎖(ちようさ)の人骨』

東京副都心の高層ビル街
風がひゅーひゅー
通り抜けています
遠く北の大地の下から
懲鎖の人骨が出てきました

サーベルとピストルで
囚人を威嚇し

その鉄道は敷設を
進められた

シベリヤおろし吹雪で
凍てつく断崖を

漠破しながら

倒れる囚人を
警棒で小突き

逃げる者は
背後から銃弾を

日中夜かけて
レールは敷かれる

その枕木の下に

疲労死体・銃弾死体
みんなみんな埋められて
いま汽車が走っている
あの明治の当時
石炭を海まで運んだ
出てくるんですよ
鎖の繋がった白骨が

新宿副都心高層ビル街は今日も
蠢き吹き下ろす突風が
ひゅーひゅーひゅー
唸りながら通り抜けています
あなた達にだって
その責任が有るのですよ

『硫黄山の人骨』

東京副都心の高層ビル街
風がひゅーひゅー

通り抜けています
遠く北の地低に吊り下げられた
硫黄つけの人骨が出るんですよ

釧路の集治監は
西南戦争敗者の衆
軍人・軍属・巡查など
屈強な軍事囚人
いわゆる重罪囚人たち

硫黄山に寝泊まりして
硫黄を掘っては
標茶へ送っていました
モッコに採掘石を入れて
よろけようものなら死

亜硫酸ガスがたちこめた
地獄の労役が
出てくるんですよ
アトサヌブリの地中から
800体の遺骨が

今なら人権問題で
この政府は世界から
弾圧されようが
なあ安田善次郎よ
非人道を遂行した安田典獄よ

新宿副都心高層ビル街は今日も
蠢き吹き下ろす突風が
ひゅーひゅーひゅーと
唸りながら通り抜けています
あなた達にだって
その責任が有るのですよ

使用テキスト

岩波ブックレット・シリーズ

(日本の近代史)5 「明治の北海道」
著者・夏堀正元(岩波書店 350円)

『女たちの人骨』

東京副都心の高層ビル街
風がひゅーひゅー
通り抜けています
消されて行った者の骨が
ヒューヒューヒュー
震いて音を発てています

あれは そう
慰安婦の骨音
慰安婦の哭く声

闇に消されて行った
者の血がしたたる
わたちの五臓六腑が
恨み泪の風切り音

将校は若い娘ピーを
兵隊は慰安所へ行列を
非人間にされた
彼女たちの人生
名前すら消されて
軍票も紙屑にされ
過去に口を噤んだ女達

語る事も出来ない
ベニヤ一枚仕切一畳
女達の生活
やっとの帰国も
慰安婦という噂の矢
故郷からも姿を消した女達
誰もその行先を知らない

新宿副都心高層ビル街は今日も
蠢き吹き下ろす突風が

ひゅーひゅーひゅー
唸りながら通り抜けています
死ななければ終の住み家へ
行けない女達
あなた達にだって
その責任が有るのですよ

使用テキスト「帰らぬ女たち」350円
岩波ブックレットNo.261
著者：富山妙子 発行所：岩波書店

End all 1995/04